第6回日本インターンシップ学会槇本記念賞選定要領

第6回日本インターンシップ学会槇本記念賞の選定に関しては、従来方式(黒字部分)」に加え、試行的に新規方式(青字部分)での選考を行う。

<選考スケジュール>

- ・ 当該年度の5月に募集開始告知
- ・ 各支部にて6月末までに4件を上限とし、学会表彰委員会に推薦
- ・ 表彰委員会委員が6月末までに一人1件を上限とし、学会表彰委員会に推薦
- ・ 学会表彰委員会による審査
- ・ 当該年度8月開催の理事会に審査結果を申告し、理事会の場で選定
- ・ 9月学会大会会場または電磁的方法を用いて表彰

<選考対象>

- ・ 大学・短大、高専、専門・専修学校、中学校・高等学校等の事例
- ・ 各支部で推薦できる事例は、2023年7月1日から2025年6月末日迄の2年間に各支部研究会ないし学会大会で発表された事例
- ・ 表彰委員会委員が推薦できる事例は、2023年7月1日から2025年6月末日迄の2年間に大会で発表された事例
- ・ 日本インターンシップ学会会員であり、学会大会、支部研究会で発表された事例

<選定>

- ・ 最も秀逸な事例:1例
- ・ 秀逸な事例:4例
- ・ 秀逸な事例:2例(新方式)
 - ※ 所属支部は考慮しない
 - ※ 表彰委員会委員推薦は、新方式で選定する。

<評価項目及び評価方法>

1. 従来方式(各支部会推薦)

① 評価項目

- ・ 制度・組織:教育としての位置づけやリスクマネジメント等の面からも、学校等が制度として組織的に取り組んでいる。
- ・ 運用:教員独自による運用ではなく、教職員、受け入れ先等を含めて、どのように組織的かつ熱心に取り組んでいる。

り組んでいる。

- ・ 内容：事前事後指導や関連領域の学修等、内容が充実しており、そのことが、シラバスやプログラム説明の資料等から読み取れる。
- ・ 期間：概ね 1 週間以上現場での活動が含まれている。
- ・ 受入先との連携：協働先として適切な受入先が確保されており、継続性がある。
- ・ 醸成される力：専門能力または汎用能力など学生のどのような能力等が醸成されたのかが、具体的な事象やデータ、証言などから認められる。
- ・ 受入先からの評価：学生の行動力や能力等について受入先から高い評価を受けているもしくは具体的な事象やデータ、証言などが認められる。
- ・ 参加した学生から高い評価を受けているもしくは具体的な事象やデータ、証言などが認められる。

② 評価方法

- ・ 評価項目 8 項目のうち、2.運用、4.期間を除く 6 項目を各 5 点満点として、全体として 30 点満点で評価
- ・ 最も合計点が高いものを「最も秀逸」、2 位～5 位までを「秀逸」として選定
- ・ 同点の場合は審査員の合議で決定
- ・ 審査員は学会表彰委員会メンバーとする

③ 推薦様式

以下のいずれかを選択して提出

- ・ 指定様式 1
- ・ 指定様式 2、支部研究会又は大会での発表資料(パワーポイント、予稿集等)

2. 新方式(表彰委員会委員推薦)

① 評価項目

a.項目

- ・ 新規性、ユニークさ
- ・ 高い教育効果、高い汎用性

b.項目

- ・ 教育としての位置づけを明確にし、当該学校等の制度として、組織的に取り組んでいる
- ・ 複数の教職員が関わり、協働的かつ熱心に取り組んでいる
- ・ 協働先として連携可能で適切な受入先が確保されており、継続性が見込まれる
- ・ 事前・事後指導や関連領域の学修等の内容が充実しており、本学会での発表資料及び関連資料等によって認められる
- ・ 参加した学生に、どのような能力等が育成されるのか、具体的なエビデンスによって認められる
- ・ 参加した学生から、高い評価を受けていることが、具体的なエビデンスによって認められる
- ・ 受入先から、学生の姿勢や能力等について高い評価を得ていることが、具体的なエビデンスによって認められる

② 評価方法

- ・ a項目は、各10点満点で評価する。
- ・ b項目は、各5点満点で評価し、得点の高い4項目で評価する。
- ・ 評価の集計結果に基づき、委員全員による協議によって決定する。

③ 推薦様式

- ・ 指定様式2、支部研究会又は大会での発表資料(パワーポイント、予稿集等)

<結果発表及び表彰>

- ・ 同賞の概要について学会 Web サイトに掲載する。
- ・ 受賞した取組みについては、学会 Web サイトに掲載する。
- ・ 表彰委員会は、上記以外に受賞した取組みに関する広報活動を行う。